

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091600116		
法人名	医療法人 宇都内科医院		
事業所名	グループホーム「日和庵」すわの		
所在地	〒830-0038 福岡県久留米市西町1046-7	TEL	0942-35-6860
自己評価作成日	平成23年4月13日	評価結果確定日	平成23年05月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27	TEL	093-582-0294
訪問調査日	平成 23年05月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療機関であるため、日々の健康管理をはじめ、急変時対応など、気軽に主治医に相談や助言を求めることができることから、利用者が安心して安全な暮らしを営むことができるよう、チームワークのとれた職員全員で取り組んでいます。また、利用者一人ひとりが、穏やかに、その人らしく過ごせるよう、家庭的なぬくもりのあるホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「日和庵」すわのは、久留米市街地の住宅地の中に、医療法人併設で開設4年を迎え、家庭的で穏やかな雰囲気を演出している。看護師でもある管理者の介護に対する思いを職員が理解し、利用者と家族の関係を築きながら、同じ目線で介助する姿は頼もしく、信頼の深い絆を感じる事が出来る。利用者の楽しみである食事は、料理自慢の職員が利用者の好みや、体調等を配慮して調理し、同じテーブルで食事する風景は、笑顔に包まれ、全員が完食し、健康で長生きの源である。また、ホーム主催の誕生会、クリスマス、バス旅行、音楽会等、毎月多彩な行事を企画し、利用者が活き活きと、充実した暮らしが出来るよう、管理者と職員が、一丸となり頑張る姿は、来訪者に信頼と、感動を与えているグループホーム「日和庵」すわのである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業者独自の理念に地域密着型サービスの視点が含まれ、利用者のケアに努めている。地域の一員として、また、家庭的な雰囲気の中で穏やかに安心して生活が出来るように支援していくことを理念としてあげている。	地域の中の一員として、家庭的な雰囲気の中で安心して生活できる支援をしていくという理念を掲げ、職員全員で理解し、日々の介護に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの現状として、9名中5名が車椅子利用と常時介助を必要とする利用者である為、積極的に地元の人々と交流をすることが出来ていない。今後の課題として取り組みたい。	年々重度化していく利用者、高齢化の進む地域の中で、交流を図っていくことは徐々に難しくなってきたが、職員一人ひとりの自覚と頑張り、地域交流の輪が、広がるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は事業所での実践内容を踏まえて地域の様々な研修・会合に関わりながら認知症ケアの啓発に努めている。また、人材育成として実習生の受け入れを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、ホームの現状報告を行っている。地域の方からは民生委員・包括支援センター・行政の方々からいろいろな意見をいただき、ホームの運営に活かす様努力している。	会議は2ヶ月毎に開催し、現状報告、情報提供、質疑応答など、参加者から活発な意見が出され、双方向的な会議になっている。また、委員の協力を得て、地域との交流を図る取り組みを進めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者・管理者代理・リーダーは介護更新手続きや近況報告などで日常的に行政と連携を図っている。	運営推進会議に行政職員が積極的に参加し、充実した交流が始まっている。今後は、行政と連携を図り、協働できる催事などを、企画していくことを検討中である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当事業所では、高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会を行い、職員の共有認識を図っている。また日々のケアを振り返り、気づかないうちに言葉をささぎったり、気持ちを抑えつけて利用者の抑圧感を招いていないか点検するよう努力している。	身体拘束廃止マニュアルを整備し、職員会議の中の勉強会で学び、知識を共有し、身体拘束が利用者にも与える心理的な弊害を理解し、拘束のない介護を実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	行政からの指導にて管理者及びスタッフが研修に参加し、それを職員会議で勉強会として全職員に周知徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回、全体会議の中で再度研修をおこない、職員全員が理解できるようにしている。	職員は、内部、外部の研修会に参加し、制度の理解と活用に向けて取り組んでいる。現在、該当者が1名いる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には時間をかけ、丁寧に説明を行っている。また利用料金・リスク・重度化・看取りについても詳しく説明し、同意を得るようにしている。事業所のケアについて関する考え方や取り組み・退去につけて十分に説明している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者・スタッフリーダーは出来るだけ、個別で家族と話す機会を持つように努めている。	職員は、ホーム行事や家族来訪時に家族とコミュニケーションをとることに努め、意見や要望を聴きだし、出来るだけ反映するよう努力している。また、家族交流会を開催し、家族同士で、話し合える場を提供している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の全体会議前に各スタッフより会議意見書に意見を挙げてもらい、それを基に全員で検討する。	全員参加の職員会議を毎月第三水曜日に開催している。事前に紙面にて意見を持ち寄り、それをもとに活発な意見交換を行い、出された意見はホームの運営に、出来るだけ反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のストレスの要因について気を配り、ゆっくり休めるよう、休憩室を確保したり、職員同士の人間関係を把握するよう努めている。シフト変更・休日等についても柔軟な対応をし、本人の負担にならないよう配慮している。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用にあたっては、性別・年齢・経験に関係なく、やる気のある人を採用している。事業所で働く職員についても、勤務体制・職員の能力や経験を活かすことが出来るような配慮をしている。	職員が生き生きと働けるように、休憩時間、置敷きの休憩室などを確保し、積極的な研修参加への支援と合わせ、職員の社会参加や自己実現に向けた側面的な支援を実施している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日頃から、利用者の尊厳や人権を尊重することを全職員で心掛け体応している。利用者に対する言葉かけを大切にすように勤めている。	運営推進会議の中で、外部講師による人権についての講話を実施し、職員全員が人権に対する意識を高め、利用者の人権を守り、安心して過ごせる環境を整える取り組みが、始まっている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、全職員が日常的に学ぶことを推進し、働きながらスキルアップの資格取得が出来るよう支援している。全職員が研修内容を共有できるよう、外部研修をレポートで報告する仕組みがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の事業者協議会に加入し、研修等にも参加している。交流のある事業所の管理者に相談・助言をしていただき、地域の同業者等との交流を広げ、ネットワーク作りやサービスの質の向上に努めている。複数事業者の研修会に参加した。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に家族と共に見学し、体験入所を行っている。やむを得ず即利用となった場合は、利用者が慣れるまで、1対1で対応、安心感を持ってもらえるよう、工夫している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の苦労や今までのサービス利用状況などのこれまでの経緯についてゆっくり聴き、ご家族が求めているものを理解し、事業者としてどう対応していくが、事前に話し合いをおこなっている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い・状況を把握し、改善に向けた支援の提案・相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら、必要なサービスにつなげられる様にしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒に過ごす時間を大切にしながら、人生の先輩として生活の知恵や巻き寿司の作り方やおはぎの作り方を教えてもらっている。支援する側・支援される側という一方的な関係にならないよう気をつけている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の状態をこまめに報告・相談し、出来るだけご家族にも面会に来ていただき、来所時にはご本人との潤滑油になるよう勤めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす馴染みの知人・友人等の居住訪問を支援したり、また、ホームの方へも気軽に来て頂いて、ゆっくりしていただけるよう配慮している。遠方からの身内の方が当ホームで宿泊できるよう支援している。	車椅子対応の利用者が増え、外出の機会が年々少なくなっている中で、知人、友人、家族の訪問は利用者の楽しみの一つである。職員は、利用者のその日の状態を把握し、馴染みの場所や人との関係継続に取り組んでいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のお茶や食事の時間は職員も楽しく過ごすようにしている。また、利用者同士の関係がうまくいく様に、職員が調整役となって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移ったり、新しい住所になった場合でも、これまでの暮らしの継続性が損なわれないよう、生活環境の支援の内容・注意する点等についての情報提供をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日常の関わりや会話、家族等からの情報収集などから本人の希望や思い等の把握に努めている。また把握が困難な場合には職員会議などで協議し検討している。	職員は、利用者の表情や、発する言葉などから意向を把握する努力をし、利用者が安心して穏やかにその人らしく暮らせる支援をしている。また、意向の表出の困難な利用者に対しては、ベテラン職員の意見を参考に、家族と相談しながら、できるだけ、本人本位に検討している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の関わりの中で利用者に声をかけ、一人ひとりの思いや希望の把握に努め支援している。意思疎通が困難な利用者には表情や鼓動などで確認している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解すると共に、行動や小さな動作から感じ取り、本人の全体像を把握している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、利用者や家族の思いや意向を聞き、担当者を中心に職員全体で作成している。家族への説明をおこない、同意の署名・捺印をもらっている。	介護計画は利用者、家族の要望を出来るだけ取り入れ、6ヶ月毎に作成している。また、利用者の状態変化に合わせて、その都度、家族と連絡を取りながら、現状に即した介護計画を作成している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個別にファイルを作成し、健康管理や日々の暮らしの様子・本人の言葉などをケース記録に記録し職員間で共有し、今後のケアに生かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて、病院受診介助・送迎などの支援を柔軟に対応している。場合によっては、家族の支援をお願いすることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、民生委員・自治会長・包括支援センター職員・市町村とともに意見交換できる機会を設けている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療機関であるため、利用者や家族などの希望で全員が母体の医療機関を受診している。本人・家族等の希望を大切に、専門以外の受診の通院など柔軟に対応している。	母体である医療法人のきめ細やかな往診や、看護師の資格を持つ管理者の的確な判断による健康管理で、利用者は安心して適切な医療が受けられている。また、夜間などの緊急時は、主治医と連絡を取り、相談しながら、24時間医療連携体制を確立している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体である医院との協力に基づき、常に利用者の健康管理や状況変化に応じた支援を主治医と連携をとりながら行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人への支援方法に関する情報等を医療機関に提供している。また管理者・スタッフリーダーが見舞っている。家族との情報交換も積極的に行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期において対応し得る最大の支援方法について、管理者は家族への説明をし、理解してもらっている。また、身体状況については主治医からも詳しく説明していただいている。	利用者の重度化や終末期に向けた指針を作成し、家族の同意を得ている。ホームと家族、医療関係者が協力し、本人、家族が満足できるような看取りの支援ができるよう、繰り返し話し合い、方針を共有し、ターミナルに向けた体制を確立している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回、応急手当の勉強会を実施し、全職員が対応できるようにしている。また、消防署の協力を得て、救急手当やAEDの使用法も習得している。事故などのマニュアルを再確認するよう職員に指導を行っている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回消防署の協力を得て、避難訓練・避難経路の確認・消火器の使用法の訓練を実施している。定期的に職員間で災害対策等について話し合う機会を持っている。	消防所の指導により、昼夜を想定した避難訓練を実施し、非難経路、非難場所を確認し、地域住民の参加をお願いして実施している。	非常災害時に利用者が容易に食べる事が出来る非常食、毛布などの備蓄の準備を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損なうことがないよう、言葉掛けや対応に配慮したケアを実践している。	職員は、利用者に優しく、穏やかに接し、耳元で声をかけ誘導するなど、プライバシーを損なわないよう配慮している。また、個人情報の資料などは安全な場所で管理されている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員間で決めたことを押し付けるようなことはせず、一人ひとりの状態に合わせ、本人が答えやすく選びやすい様な働きかけをしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの体調に配慮し、食事の時間をずらしたり、利用者の気持ちを尊重し、支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせ支援し、また日頃から化粧やおしゃれを楽しんでもらえるようレクリエーションの一環として行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事の準備や片付けをし、利用者の好みに沿ったメニューを提供している。利用者と職員は朝食と夕食を同じテーブルで同じ食事を、楽しい会話をしながらおこなっている。	料理上手な職員の作るバランスの取れた美味しい食事は、利用者の一番の楽しみである。大きなテーブルを囲み利用者と職員が、一緒に楽しくおしゃべりしながら食べる光景は、家庭的で温かいものを感じる。また、完食する利用者が多く、元気の源となっている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の嗜好を把握しながら、職員で献立を作り、介護日誌に食事内容を記録し、特別メニューの際は写真を残している。また、食事や水分の摂取状況も毎日チェックシートに記入している。主治医も検食に参加している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者一人ひとりに合わせて洗面所まで誘導し、ケアを行っている。また毎週水曜日には、歯ブラシ・コップ・入れ歯ケース等の消毒を実施している。口腔内の清潔を保つ為、定期的に訪問歯科を受診している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、利用者の状態に合わせた介助を行っている。出来るだけトイレでの排泄を大切に、DパANTS・尿漏れパッド類も本人に合わせて使用している。	職員は利用者の生活のリズムや排泄パターンを把握し、職員間のチームワークを発揮し、排泄の自立に向けた取り組みを実践している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し、便秘の方には十分な水分補給と繊維質の多い食材を提供している。また主治医に相談し、緩下剤の投与も利用者に合わせて行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者1名に対し職員2名の介助が必要となる利用者が数名おり、入浴中の常時見守りが必要な為、利用者の希望やタイミングにあわせての入浴が充分とはいえないが、職員の頑張り希望に添えるよう努力している。	利用者の重度化に伴い、入浴介助が大変になってきているが、職員の頑張りや、入浴が楽しいものになるよう支援をしている。また、入浴を拒む利用者に対しては、気長に説得し、入浴してもらうよう努力している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。利用者の中には午睡される方も多く、夜間の不眠にならないよう配慮している。また不眠の訴えある利用者には主治医に相談し、眠剤などで対応している。		
		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報ファイルを作成し、職員が内容を把握できるようにしている。また処方変更があれば、その都度申し送り簿に記入し、報告を徹底している。また個人ごとに服薬箱をつくり、間違えがないように工夫している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は利用者の出来る事や得意な分野を把握し、テーブル拭き等の役割分担を決めたり、編み物・雑巾縫い・花や野菜の手入れ等の楽しみ事を一人ひとりに支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の状況や希望により、散歩や買い物などの外出支援を行っているが、毎日実施できるわけではない。年に2回、イベントとして全員でバス旅行をしている。今年度はゆめタウンの買い物ツアーや鳥類センターへの遠足を実施した。	車椅子による外出が増え、職員の対応が大変ではあるが、家族の協力と、職員の努力で、出来るだけ外出が、できるよう努力している。また、ホームの庭での草取りなど、外気に触れる機会も作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	通常は利用者自身がお金を所持することはしていないが、時々買い物などの外出をする際に、ご家族と相談の上、お金を所持し買い物する楽しみを持っていただけるようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状や暑中見舞いを出すように支援している。また利用者の希望により、家族や親戚に電話が出来るよう支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の一角に和室があり、利用者がかつろげるソファと畳の空間がある。壁や廊下にはイベント時などの写真や利用者と一緒に作った作品を飾り、家庭的な雰囲気で落ち着けるよう工夫している。また音や光にも配慮している。	1階に皆が集う生活の場、2階が居室に分かれ、ゆとりのある生活を支援する様々な工夫がなされている。また、庭には黄色やピンクの薔薇が咲き乱れ、菜園には、ピーマン、胡瓜、トマトの苗が植えられていて、利用者、職員の楽しみとなっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1階和室ではソファや簡易ベットを置き、ゆっくり休めるスペースを確保する。また洗濯物を畳んだり、お手伝いの場にも活用している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には板の間や畳敷きなど利用者の好みに合わせている。利用者の馴染みの者や仏壇などが持ち込まれ、壁には利用者の家族の写真が飾られている。その人らしい個性を尊重し、居心地良く過ごせるよう工夫している。	居室には、家族と相談しながら、馴染みの家具や小物、家族の写真などを持ち込んでもらい、本人が、ゆったりと寛げる場所として、落ち着いた雰囲気になるよう演出している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子利用者が自走できるよう、通路を広く確保している。また2階居室の廊下で手すりを使いながら歩行訓練を行っている。最近、ADL低下に伴い必要な場所に手すりなど設置を検討している(特に浴室)。入浴の安全マニュアルを作成した。		